



## 児童映畫に就いて

——『にんじん』と『母の手』から——

奥 平 美 雄

今年の映畫界は歐洲映畫に名作が多かつたやうですが、中にも『にんじん』と『母の手』は随分評判でありました。『にんじん』も『母の手』も御承知のやうに子供を主題とした、子供の世界、子供の心理を描いたものでありますが、之が意外にいろんな方面から賞讃を博して居ります。

『にんじん』の原作は、フランスのあの有名な小説家ジュール、ルナールの同名の作品に據つたものでありますが、原作は幾つもの個々の挿話によつて連結されてゐて、あの映畫に現はされてゐるやうな一貫した劇的な筋を有つたものではありません。そこには「言葉のイメーヂの獵人」と呼ばれたルナールの繊細な筆で、巧みにユーモアの中に子供のペーソスが描きつくされてあります。ルナールの文學を愛する人は、恐らく彼の文章の文字と文字との間から一つ

の抒情詩風な感銘を享けられたこと、思ひます。ところが映畫といふものは、文學とちがつて個々の獨立した挿話を集めて一つの作品を作るわけには行きません。さうしても一貫した劇的な構成が、言ひ換へるに伏線や、やまといふものがないと成就出来ない性質のものですから、映畫の方の『にんじん』は原作の小説とは随分様子のちがつたものとなつて居ります。ですから映畫の『にんじん』から享けた私の感銘は原作のそれから享けたやうな詩的な柔かなものではない。さうもどぎつい、何もなく強すぎる、無理がある、母親の子供に對する態度なんかあまりひどすぎる、あんなものぢやない、うそだ、さいふ氣が私にはいりました。その點で私はこの映畫を世の批評家や一般のファンと同じやうに高く買ふことが出来ませんでした。

次に最近の『母の手』云ふのは、之もフランスの映畫でありますが、一九〇四年のゴンクウル賞を獲たレオン、フラビエの『保育園』といふ小説を映畫化したものだそうです、この映畫の會社側の宣傳によります、フランスでは自國の映畫でこれ程偉大な感動を観客に與へたものはこれまで一つもなかつたといふことすし、ドイツでは、ヒツトラーさへ泣いて感激し、フランス物であるに拘らず輸入税を免除したほどだ！といふ最上級の賞讃が記されてあります。にも拘らず、今度は私はこの作品では期待してゐた程の迫力といふものを感じるこゝが出来なかつた。私はまだこの原作を讀んでゐませんから原作のこゝは、わかりませんが、恐らく原作の迫力をもつ強い、胸打つものではないからうかご想像してゐますが、この作品にはさうも全體の調子が一律で弱すぎる。之は『にんじん』の場合とは反對に、もつミクライマックスといふものが強く盛上げられて好いものぢやないかご考へられるのです。折角貧しい子供達の群がよく描かれてゐるにも拘らず、之に投ぜられる母の手の如き愛の強さの表現があまりにおこなしすぎる。

私は實はこの映畫を見に行くさきにもう一度遠い昔に返つて母親の懐ろの温さを思ひ出して、靜かに泣けることを期待して映畫館に入つたのですが、遺憾乍らさういふ期待には添ひ得ませんでした。そして會社の宣傳文に書かれてあるこゝが寧ろ異様にさへ感ぜられたのです。

私は以上で、今年の映畫中の名作を稱讃された二つの作品について、あまり高く購ひ得ませんでした、然しなほ是等を没却はいたしません。それには少くとも二つの理由があります。その一つは是等の映畫が何れもフランス映畫であるといふこと、もう一つはこの何れもが小さき子等の世界にレンズを向けてゐるといふことであります。何故フランス映畫であるといふことが私の注意を惹くかご申します、古來フランスといふ國は御承知のやうに藝術的に感觸のすぐれた國であります。例へば近代繪畫の新しい發祥地と見ても差支へないほどの國であります、之が映畫の方面に於いても一種獨特の色彩を持つて居ります。一三口に申しますと畫面全體がやはらかで、肌きが細やかなのであ

ります。従つて畫面のリズムに荒々しいところが無い、極めてスムーズであります。ですから、かうした子供の世界を描くには非常に詩的な、藝術味の豊かな作品が生れ易い素地があるやうに考へられます。このこゝは前に掲げた二つの映畫の中でも充分看取されます。之はドイツ映畫やアメリカ映畫の中では容易に見出し得るものではないのであります。

次に是等の作品が子供の世界を主題としてゐるこゝから關聯して、兒童映畫といふものに就いて少し考へて見たいと思ひます。古くから子供をその中に取り入れた映畫も相當ありますがその中から印象的な作品を二三拾つて見ますと、フランスのジャック、フェデーの『雪崩』、チャップリンの『キッド』、ピックフォードの『小公子』、それから最近になつてアメリカ、トーキーの『スキピ』や『スキピ』、『僕はカウボーイ』等があります。この中でもジャック、フェデーの『雪崩』は、母親を失つた十二三の少年が、亡くなつたお母さんの代りに入つて來た新しい母親とその連れ子に對して、さうしてもうち融けるこゝが出来ない、死ん

だお母さんの戀しい面影を想へば想ふほど、新しい侵入者が憎くてたまらない、そして之に對して反抗して行くこゝが子供らしい遺瀨ない細かい心づかひを描いたものでありまして、之は映畫史上の一つの傑作として今日ではクラシックにぎりあげられてゐるものでありますが、之は實に良いものであります。チャップリンの『キッド』もピックフォードの『小公子』も何れも傑作でありましたが、最近トーキーになつてからノーマン、タウログのいふ監督が次々に兒童の世界を描いて『スキピ』とか『スキピ』といふ作品を作りましたが、之には小さい子供のあざけられない聲や會話が聞えて來ます。子供の聲といふものや、子供の會話といふものは世界の何れの國であつても何かしら詩的な快いものに聞えて來るさ見えて、見てゐる中々可愛いものであります。然しアメリカの映畫は何處かあざけなさに缺けてゐます、何となく大人臭くて、狙ひどころの山が大きすぎる感じがします。

そこで兒童映畫といふものについて二つのこゝが考へられるのであります。之は兒童映畫といふものが存在する

とすれば、一體その対象であるところの観客は何ういふ人達であるかといふことが大きな問題になつて参ります。つまりこの対象は大人におくか、児童におくかといふことで、自づこ映畫の内容なり、製作態度なりが異つて來ます。在來の子供を描いた映畫は、子供が見るためより大人が見るためのものでありましたから、謂はゞ「大人の繪本」いふ趣きを具えてゐたのです。さきのフェデーの『雪崩』の如き傑作でも、大人にまつてこそ傑作でも果して子供が見て打

たれるがさうかは疑問です。然しかうした大人のための、児童を主題にした映畫は大いにあつて好い譯です。現代の大人といふものは日々の生活のため、社會の煩忙に紛れて童心さいふものからは遙かに遠のいて居ります。かういふ硬化した潤ひのない世界には何うしても童心を盛つた藝術が必要で、子供の語る一つ一つの言葉には勿論多くの詩があります。新鮮で、そして鋭い感覺の表示がありますから胸を打たれるところも大きくあります。又子供等の語るかたここの發音には樂器では聞けない生々した音樂があるやうです。して見るさかうした詩や音樂をトーカーによつ

て接することは大きな收穫でなければなりません。この意味で「大人のための児童映畫」といふものがもつて發達して好いといふことが考へられますが、然し、童心を描くといふことは如何にも難しいことゝ見えて大人自身の生活を描いた映畫に較べるに殆んどお話にならぬ位少い。又製作されても傑作には乏しいやうであります。殊に日本に於いてはこの種の映畫には全く冷淡です。

次にこの児童映畫の觀客対象を児童それ自身に向けるといふ態度です。このことは前の場合以上に一層重大な意義を有ちます。児童のための映畫、児童の情操なり智育なりに裨益するための映畫、かういふものは之からは次第に發展して行かなければならぬ大きな問題であります。ところが、現代の映畫製作所といふものは承知の如く殆んど全く營利資本主義的でありますから、儲かるもの以外には決して手を出さない。殊に映畫觀客層といふものが殆んど全部が大人である以上、故意に子供のためのものを作つて損をする馬鹿はしません。かういふ譯で「児童のための映畫」といふものは事實そんなに發達してゐないのであります。

然し之は之からさうしても進展させなければならぬものだと思ひます。それには、さうしても營利を離れた製作の方法を探らなければならぬ。そして之は國家の事業にするか、又は教育團體の事業にするかして、この道の研究家と映畫技術家との提携が必要だと思へられます。

現在、外國では、例へばドイツだとか、ロシアなどでは文化映畫の製作が重要視されて居ります。之は近代科學の偉大な所産としての映畫を利用して、一般國民の文化的智識の開發を促さうとの意圖のために作られるものでありまして、殊にロシアの如きは一般國民の教育程度が低く、無學文官のものが多いために、手つかり早く映畫によつて生理衛生の智識とか科學の智識を授けんがために、映畫製作は國營になつて居り、この種の映畫は全製作數の六、七割を占めてゐるさういふことであります。又ドイツにあつても科學、衛生の智識普及のために博物館や物理、化學、またスポーツ等の映畫製作にそれ／＼の權威の人が動いて居ります。かやうに、文化映畫の製作には多少世界に見るべきものはあるのですが、兒童映畫のそれに至つては未だ充分進め

られてゐるやうには聞いて居りません。殊に日本の映畫界は一般に貧弱でありまして、かういふ方面には至極冷淡であります。最近政府が映畫國策といふことを云ひ出して來たことは大變慶ぶべきことで、政府の力でこの方面が開拓されて行きましたら、今後大いに見るべきものがあるかも知れません。(了)

(八〇頁より)

若し問ふ人あらば「私の老祖母は先年亡くなりました。今は祖母を奉養する愉快な心持に代へてをる勝手な行であります」ご申されます。

斯様な立派な心と達者な腕とを併せ持つ保姆先生、幼兒に接して善良な感化と優秀な保育の効果を上げない筈がありませんか。又一旦緩急の場合烈々偉勳を樹てられるであらうことも想像に難くありません。世の保姆先生勿論之に劣らぬ方の多い事を信じて居りますが、近來の快事としてお知らせ申します。因に此の谷口先生の二ヶ月に亙る奇篤の行爲が動機になつて三浦女史も更に縁邊の人に引取られ今では安らかに老の身を靜養し得る境涯に移られました。